

## 令和4年度 佐賀県農業改良普及事業成果報告会

# 普及事業成果事例集

### 【報告事例】

- 【佐 城】前例のない挑戦！中山間地域における広域営農組織の設立・育成支援・・・1
- 【三 神】中山間地域の農業・農地の維持及び農業所得の向上・・・・・・・・・・2
- 【東松浦】次代を担う新規就農者・若手女性農業者を確保・育成するしくみづくり・・・3
- 【西松浦】中山間地域農業発展につなげる集落営農組織等の運営強化・・・・・・・・・・4
- 【杵 島】若木地区の新たな地域営農システムの構築・・・・・・・・・・5
- 【藤 津】トレーニングファームを核としたトマト産地の検討・・・・・・・・・・6

### 【ポスター発表】

- 【佐 城】地域で、確保・育成する農業の担い手・・・・・・・・・・7
- 【三 神】地域ではぐくみ、育てる新規就農者・・・・・・・・・・8
- 【東松浦】中山間地域で農地の受け皿となる集落営農の組織強化と  
組織間・広域連携の推進・・・・・・・・・・9
- 【西松浦】ナシ研修生受入体制の取組による産地振興・・・・・・・・・・10
- 【杵 島】新規就農者の確保と意欲ある若い農業者の育成・・・・・・・・・・11
- 【藤 津】糸岐地区をキラッと光る集落へ  
～儲けるための新技術導入で経営発展を図る～・・・・・・・・・・12

令和5年3月

# 報告事例

- 中山間地域では、近年、高齢化等により、既存の体制（単独集落や機械利用組合）では農地の維持、引いては農村の維持が困難になってきている。
- 既存の集落の枠組みを超えて（集落間の連携）、農業の支援また地域の活性化に取り組む新たな組織の設立および育成支援に取り組んだ。
- 佐賀県初の中山間地域における広域営農組織（法人）を設立。
- 広域営農組織の経営が順調にステップアップ。

## 目標とする成果

- 中山間地域における広域営農組織の設立  
（株）北山神水川ファーム（5集落）を設立（令和3年4月）



## ■法人事業のステップアップ

- ・ドローン防除等の受託面積拡大  
→2年間で80haまで拡大
- ・草刈り作業受託  
→オペレーター10名確保（女性含む）
- ・水稻の力化技術である密苗の導入  
→慣行より苗箱半数で、収量は同等
- ・露地野菜を導入  
→冬どりたまねぎとサトイモを24a作付け
- ・林業作業等の受託（3か所）
- ・中山間直払制度の広域協定化 など



- 他地域への波及（R4年度：視察件数4件）

## 今回の普及活動の特徴

- 広域組織設立にあたっては株式会社の選択や中山間地域直接支払制度の活用など中山間地域に適した設立支援を行った。

- 生産性が高くはない中山間地域において、持続的な活動ができるよう農業に限らず、林業を含む多角的な事業を展開した。

## 目標を達成するための普及活動

- 平成30年～令和2年  
■広域営農組織の設立を検討する設立準備委員会等を設立・参画



- 令和3年～令和4年  
■法人の運営強化  
①役員会への参画  
②社員の雇用支援  
③中山間直払協定の指導  
④補助事業の支援 など



- 令和3年～令和4年  
■水稻の密苗および露地野菜の展示ほを設置し、栽培指導および定着を図った。



- 令和4年  
■他地域への波及  
①新聞への掲載  
②発表会の開催  
③視察の受け入れ



## 関係機関との連携

設立前

推進チーム  
（普及、市農協）

助言・資料提供等

検討体制

設立準備委員会

世話人会

発起人会

設立後

推進チーム

助言・栽培指導等

広域法人

○中山間（山麓部含む）地域は、高齢化等から耕作放棄地の増加が懸念され、今後の農業の継続も危惧されていた。

○そこで、農業・農村を維持、発展させるため、みやき町の**高柳集落**を対象に、関係機関と一体となって、「**集落ビジョンの作成**」、「**農地を守るためのルール作成**」、「**農地を維持するための組織の育成**」等の支援を行った。

○さらに、鳥栖市の**田代西部ファーム**を対象に中山間地における所得向上対策として**露地野菜**と水稻省力化技術の導入を推進した。

## 目標とする成果

### 【高柳集落】（みやき町）

#### 1) 地域ビジョンの策定

前向きな意見を集約し集落の将来像を描くため、**ワークショップの開催**を支援し、「農作業の軽減」や「コストの軽減」など4つのステップからなる「**集落ビジョン**」の作成に繋がった。



#### 2) 農地維持を図る組織の育成

高柳集落の急傾斜地で「**中山間地域等直接支払制度**」を活用するため、令和3年6月に「**高柳集落組織**」が設立された。

令和4年6月には、集落ビジョンを実現するため、緩傾斜地を加え**集落全体の農地で直払制度**を活用することとなり、景観作物の作付けや、**耕作放棄地（2圃場）の復田**など、**集落共同の取組**が始まった。



### 【田代西部ファーム】（鳥栖市）

#### 1) 新規品目と省力化技術の導入

**ダイコン（40a）**、**ブロッコリー（7a）**、**紫モチキビ（5a）**の作付けが始まった。

中山間で**水稻短期苗**が導入された。



## 今回の普及活動の特徴

4つのステップからなる「**集落ビジョン**」を**集落全体の合意のもと作成**することができた。  
「**高柳集落組織**」が設立され、**集落全体で「中山間地域等直接支払制度」の活用と共同作業**が始まった。

栽培方法を模索し、露地野菜の試験導入を続けた結果、**ダイコン、ブロッコリー等が導入**され**女性部による作業支援体制も確立**された。

## 目標を達成するための普及活動

### 1) 推進体制の構築

- ・プロジェクトチーム会議の開催（計38回）
- ・集落営農支援担当者会議の開催（計27回）

### 2) 農地維持の取組支援

- ・ビジョンの実践に向け建設的な協議を進めるため、次世代を担う**若手生産者での検討会**の開催を支援した。（令和元年より計14回）
- ・営農状況の分析や将来地図の作成、農地受委託のルール化と作業受託料金の作成など**集落内の取り決め作成に向け支援**した。
- ・鳥獣害対策を徹底するため集落点検を実施し、**生息状況や侵入経路を明確化し対策を支援**した。



### 3) 新規品目の導入、栽培確立による所得向上

- ・露地野菜（ダイコン、ブロッコリー、紫モチキビ）の生産安定を図るため、品種比較試験や作型試験を実施し**現地適応性及び収益性を検討**した。
- ・水稻における育苗作業の軽減とコスト削減を図るため、現地試験を実施し効果を検証した。

## 関係機関との連携

関係機関と役割分担を明確化し、集落へ効率的な支援を行った。

- ・栽培技術、経営支援、各情報提供、協議支援  
JAさが東部営農センター  
三神農業振興センター普及課
- ・各種制度、補助事業の活用推進、地元との調整  
みやき町農林課  
三神農業振興センター  
農業企画課



○唐津・東松浦地区は農家数が県内の2割を占める、県を代表する農業地域であるが、高齢化による農家数の減少が続いている。

○そこで、新たな農業の担い手確保対策として、**新規就農者を支援する一貫した仕組みづくり(呼び込み・研修・農地取得支援)**に取り組んだ。

○施設野菜で新規就農者支援システムを整備したことで、**新たに10名が就農し**、特に先行して取り組んだ**アスパラ部会の活性化(生産者105%、面積134%)**につながった。

## 目標とする成果

### 1 新規就農者の確保

■年間の新規就農者数 目標:30名  
(H29) 14名 → (R4) **25名**

### 2 新規就農者支援体制の整備

■就農希望者の産地への呼び込み  
(H29) 0名 → (R4) のべ20名

■就農希望者の研修を行う**トレーナーの整備**  
(H29) 0部会 → (R4) **6部会32名**

|          | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4        |
|----------|-----|-----|----|----|----|-----------|
| 整備された部会数 | 0   | 1   | 2  | 2  | 5  | <b>6</b>  |
| トレーナー(名) | 0   | 3   | 6  | 6  | 31 | <b>32</b> |

■就農希望者の遊休ハウス取得支援  
(H29) 0名 → (R4) のべ9名

### 3 生産部会の活性化

■アスパラ部会の生産者(**105%**)、面積増(**134%**)  
(H29) 38名、730a → (R4) **40名、980a**



## 今回の普及活動の特徴

○**呼び込み、研修、農地取得支援と一貫した支援体制を構築**し、非農家出身者が就農しやすい環境を整備することができた。

○トレーナーの選定や技術習得研修を**JAや部会主体で行った**ことで、**地域全体で新規就農者を支援する機運が高まった**。

## 目標を達成するための普及活動

### ■新規就農者の呼び込み

・施設野菜の栽培の紹介、現地見学等を行う**セミナーを7回開催した**(R2～R4)。



・東京や福岡で開催された就農相談会に市町担当者とともに参加し、**県外からの就農希望者の対応を行った**(R4)。

### ■技術習得のための研修「唐津版アグ・トレ」の整備 (H30～R4)

#### ①トレーナー(受入農家)の整備

施設野菜6部会でアンケート調査を実施し、結果をもとに**トレーナーを選定した**。

#### ②短期研修・長期研修

**トレーナーのもとで就農希望者の研修を実施し**、栽培技術の習得を支援した。



### ■就農地の確保支援 (R2～R4)

#### ①遊休ハウスのリスト化

関係機関の情報を集約して**遊休ハウスのリストを作成した**。

#### ②園芸団地の整備

各市町で委員会を開催し、品目や場所の検討を行った。**R6年に1か所整備予定**。

## 関係機関との連携

○市町、JAと連携して取り組みをすすめたことで、**地域内の他の作物へ波及させることができて**いる。

○JAや部会生産者と密に連携して活動を行い、**地域に根ざした研修の実施や流動的な農地の把握**につながっている。

○担い手の減少や、米価下落に伴い、遊休農地が増加しており、農地の受皿となる集落営農組織の役割が重要である

○モデル組織である中田集落で集落ビジョンの作成を行い、**作物の高品質化、担い手の確保、育成、新たな品目の導入**を行った

○米の作期統一、コンクールへの出品、青壮年部の活動の活性化として農作業への参加、新規露地野菜の栽培導入ができた

## 目標とする成果

### 1. 生産圃場の環境整備

- ・中山間協働応援隊により畦畔管理の軽減化
- ・鳥獣害被害対策としてイノシシの捕獲頭数 **30匹以上/年 増加**

### 2. 高く売れる米づくり

- ・たんぱくマップの作成による**品質の向上**
- ・作期を三時期に統一し、作業効率化向上



### 3. 営農組織強化

- ・作業計画表の作成により、人員の確保 **若手4名、合計68時間**の協力を得られた
- ・オペレータの確保育成 **大型特殊免許の取得費用の全額負担**により、新規オペレータ **1名増加、5名増加予定**

### 4. 新たな商品づくり

- ・**タカナ、シンテッポウユリ**の栽培確立
- ・青壮年部での活動 **さつまいもの栽培**に向けた整備

## 目標を達成するための普及活動

### ・ビジョンマップの作成

(平成30年度)

### ・スローガン

「明るい中田、儲かる農業」の決定  
(令和元年度)



### PDCAサイクルを回して更新を行った

### 1. 生産圃場の環境整備

- ・中山間協働応援隊による草刈りの応援作業(令和元年度)
- ・カメラの設置を行い、アライグマなどの捕獲を行い、イノシシの捕獲量増加(令和元年度)

### 2. 高く売れる米づくり

- ・**たんぱくマップの作成** (平成30年度)
- ・作期統一に向けた移植日マップの作成 (令和元年度)
- ・お米食味コンクールに出品 (令和元年度)



### 3. 営農組織強化

- ・作業計画表のフォーマット作成 (平成30年度)
- ・**若手意見交換会の開催** (令和4年度)  
青壮年部への大型特殊免許の取得に向けた進捗確認

### 4. 新たな商品づくり

新規品目への作付け指導 (令和元年度～令和4年度)

(**タナカ、シンテッポウユリ、さつまいも**)

## 今回の普及活動の特徴

- ・集落全体でのアンケート調査、意見交換会を行い、集落ビジョンマップの作成を行い目指すべき姿を策定した
- ・大型特殊免許費用の全額負担を行い、若手の参画によるオペレーターの増加
- ・作期の統一を行って、品質向上

## 関係機関との連携

集落支援担当者会：市町、JA伊万里  
地域農業再生協議会

○中山間地域では、人口減少、過疎化、高齢化の進展が早く、集落の地域活動等を支える担い手が不足し、今後の地域農業の維持存続さえ危惧されている。そこで、武雄市若木町の集落営農組織を対象に課題解決への支援を行い、次世代が地域農業に参画しやすい仕組みを作った。

○組織ごとに農地を守り次世代にバトンを渡せるような仕組みづくりや体制を整えることができ「若木地区の新たな地域営農システムの構築」につなげた。

## 目標とする成果

### 1. ビジョンの策定、共有化

組織の主体性を高めるためにワークショップを開催し、組織の目的（存在意義）を明確にした。それにより目的達成にむけた「実践計画書」や「農地を守る5か条」等、具体的な解決策を記した「**ビジョン**」が策定され、**農地を守るための道筋**ができた。

### 2. 安心して農地を維持補完できる体制整備

「将来地図」の作成により、農地を維持するための解決方法を具体的に話し合う契機となり、**組織が主体的に農地を維持補完することができる仕組みづくり**となった。

営農継続された農地→約2ha  
新たな作業受託組織の設立（2）

### 3. 若手が参画しやすい体制整備

地元消防団員を対象に農作業オペレータ募集したところ、**若手5名が新たに農業に参画した**。



募集にあたり労働条件や研修など、若手が安心して農業に参画しやすい環境づくりとなった

### 4. 魅力ある地域営農づくり

鳥獣害被害は、集落ぐるみで効果的な防除対策ができたことで被害面積の減少につなげた。

新規品目タカナやシンテッポウユリは目標収量を達成でき、野菜班を中心に主力作物として取り組まれている。

## 目標を達成するための普及活動

### 1) 組織ごとに課題の整理

若木地区3つの営農組合ごとの環境や条件が異なることから、効果的に活動推進するために組織ごとにヒアリング調査やワークショップ等を実施。**組織が抱える課題を明確にし、農地を維持補完できる対応策を提案**した。

### 2) 人・農地・機械・若手に関する課題の可視化

「**将来の地域農業を考える会**」を2集落営農組合（9集落193戸）を対象に開催し、人・農地・機械に関する課題の洗い出しを行った。

将来の営農状況を地図に反映した「将来地図」や「農地を守るルール化」

「作業オペレータ条件整備」等の作成にあたり、**組織の主体性を高めるマネジメント**に徹した支援方法で行った。



活動成果は「営農新聞」や「リーダー研修会優良事例発表」を使い効果的に情報発信した。

### 3) 新規品目の導入検討と鳥獣害対策

・集落ぐるみの鳥獣害対策を推進するため、集落点検会の結果を反映した「イノシシ出没マップ」や「イノシシ対策カレンダー」の作成支援した。

・新規品目導入にあたり、集落営農組織での導入評価の検証とともに、地域反収以上の収量確保を図るため徹底した現地指導を行った。

## 今回の普及活動の特徴

同じ町でも組織ごとの環境や条件が異なることから、組織ごとの課題をヒアリング調査等からの確に整理し考えられる対応策を最初に提示した。

ビジョン実現のために取り組まれた成功事例は点で終わらせず、**目標達成の道筋へ分かりやすく可視化し、モチベーションの向上**につなげた。**組織の主体性を高めるマネジメントに徹した**。

## 関係機関との連携

本活動支援にあたり「推進会議」を発足し、関係機関の役割を明確にした。令和2年度からは新型コロナウイルス拡大に伴い、より効率的で効果的な支援活動を展開するため、今後の方向性やプロセスをパワーポイントで分かりやすく提示し、共通認識で支援することができた。それにより計画以上に活動が展開することができた。

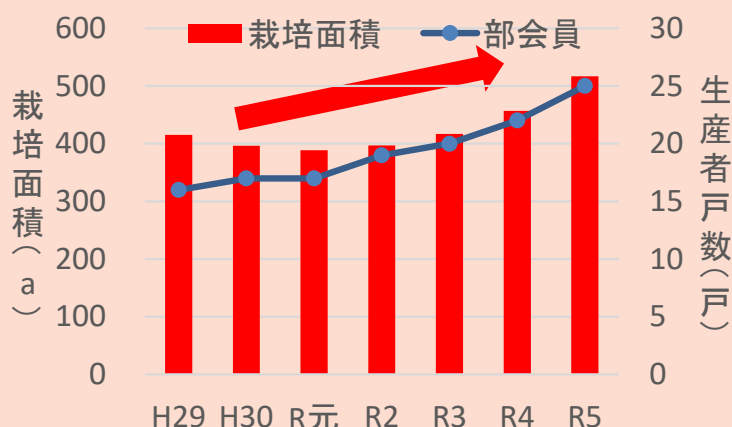


- みどり地区施設トマト部会は、10年間(H19～29)に出荷量が約73トン減少。
- そこで、トレーニングファームと連携して、①とまと就農希望者の確保や育成、②高軒高ハウスでの高収量生産技術の確立、など等普及活動を展開した。
- 取り組みの結果、新たに8名の就農に結び付いた。
- 加えて、既存農家の規模拡大も図られ、4戸が規模拡大を達成。
- 産地の5年後(R9)の販売金額は、活動前の237%まで増加する見込み。

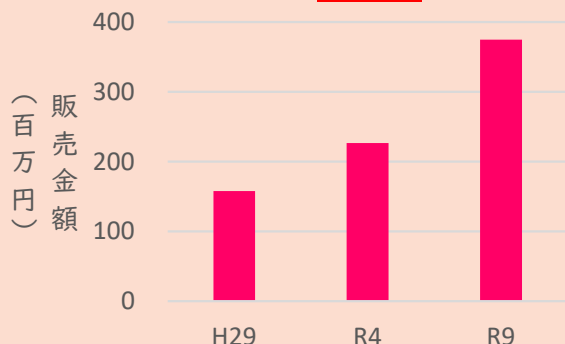
## 目標とする成果

### I とまと産地の維持・発展

- 新規就農者数(H29:2人→R4:7人) ※累積
- 新規就農予定者数(R5年以降:3人)
- 生産者戸数(H29:16戸→R5:25戸)
- 栽培面積(H30:396a→R5:517a)



- とまと産地販売金額(百万円)  
(H29:158→R4:227→R9:375)



## 今回の普及活動の特徴

就農希望者の受入れ体制の整備から就農に向けた伴走支援、就農後の経営発展に至るまで一貫した普及活動を展開。

新規就農担当と特技担当で役割分担し、研修生や担い手への技術・経営支援を行った。

## 目標を達成するための普及活動

### ①とまと研修受入体制の整備(H30)

- トレーニングファーム応募者多数の場合に備え、先進農家2戸を研修受け入れ農家に位置付けた。
- 普及員が基礎知識習得のための研修会(基礎・トマト専門)を開催することで、研修カリキュラムを充実化。
- 研修の相談窓口周知については、振興センターは管内において啓発資料を配布。JAがインターネットでの管外に向けた情報発信など役割分担。

### ②研修生へ就農に向けた伴走支援(H30～R4)

- 就農相談の窓口は市町やJA、その後のコーディネート役は普及員が担うなど役割分担。、就農相談時に、関係機関を参集することで就農相談の円滑化を図った。

### ③とまと生産技術の確立(R2～R4)

- 高収量農家とトレーニングファームの生育・環境データを収集し、栽培指針を策定。
- 病虫害対策を目的とした展示圃を設置し、生産部会に周知。研修会にて生産者へ普及を図った。

### ④新規就農者や担い手への経営支援(R3～R4)

- 簿記ソフト活用グループを立ち上げ、定期的に経営支援を実施。
- 調査研究(トマト経営調査)をもとに、規模拡大の経営シミュレーションを実施し、規模拡大を推進。

## 関係機関との連携

「藤津地区青年農業者等育成対策協議会」を運営し、市町やJA、トレーニングファームや生産部会と連携し、就農相談から就農定着までの伴走支援を実施。

就農後は、生産部会が中心となり技術指導を行うなど、地域で包括的に新規就農者を育成する体制が整っている。

# ポスター発表

- 近年の新規就農者数は25名前後で推移していたが、産地維持のためにはより多くの新規就農者の確保が必要であった。さらに、近年は農外からの就農者が75%まで増加しており、経営安定支援が急務となっている。
- 新規就農者の確保と就農後の経営確立を目的として、関係機関との支援体制の構築、新規就農者の確保・育成に向けた活動を強化した。
- 目標とする成果として、新規就農者数:**31人(H29)→40人(R4)**、経営改善・経営発展に繋がった新規就農者数:**5人/年**を目指して活動を行った。

## 目標とする成果

### ■新規就農者数

- ・H29年度以前の25人前後から、活動後35人前後と増加
- ・令和4年度は目標の**40名達成**



※黒枠内がプロジェクト活動期間

### ■経営改善・経営発展に繋がった新規就農者数

- ・新規参入し初期投資の大きい新規就農者に担当普及員を貼り付け、重点的支援を行った。
- ・目標達成農家割合が**徐々に高まり、後半3か年は目標達成した。**

|                    | H30 | R1  | R2   | R3   | R4   |
|--------------------|-----|-----|------|------|------|
| 重点支援対象農家数          | 7名  | 7名  | 7名   | 8名   | 9名   |
| 目標達成者数             | 3名  | 4名  | 7名   | 5名   | 6名   |
| 目標達成者5名の目標数に対する達成度 | 60% | 80% | 140% | 100% | 120% |

### 【若手普及指導員のへ育成効果】

- ・農家との信頼関係を作ることができ、自信とやりがいにも繋がった。

## 今回の普及活動の特徴

- 多品目な就農啓発セミナーを開催するとともに、高校生からの就農啓発を図ることで、より多くの新規就農者の確保に努めた。

- 県外参入が多いトレーニングファームの女性農業者を中心にグループ化を行い、地域への溶け込みが加速するよう支援した。

## 目標を達成するための普及活動

### ■地域段階における関係機関との連携体制

- ・所内チーム会議の開催
- ・青年農業者対策協議会の担当者会の開催



### ■新規就農者の「確保」の取り組み

- ・就農相談会の開催
- ・就農啓発資料作成
- ・高校生への就農啓発
- ・啓発セミナー開催



アスパラガス、イチゴ、ナス、脊振・三瀬地域、富士町の5つのセミナー

- ・トレファの運営支援

就農セミナー参加者状況

|    | 参加者数 | 参加後の対応 |      |      |
|----|------|--------|------|------|
|    |      | 就農     | 就農準備 | 就農相談 |
| 人数 | 125  | 16     | 9    | 7    |

### ■新規就農者の「育成」の取り組み

- ・重点支援対象農家のリストアップと個別巡回支援
- ・農業基礎講座の開催
- ・ネットワークづくりの支援
- ・レンコン農家女性農業者（**1組織結成**）



## 関係機関との連携

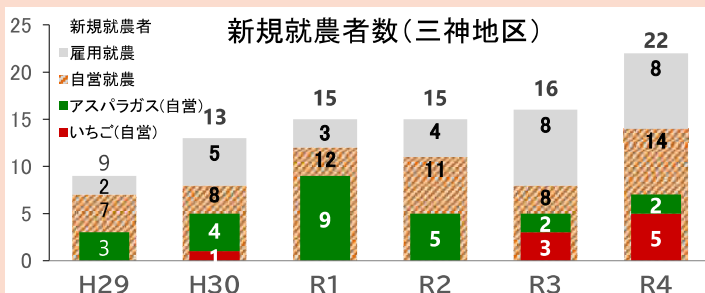
- ・振興センター: 所内プロジェクトチームを設置し、支援方策の企画・検討、プロジェクトの進行管理、関係機関との連絡調整、青対協委員会・担当者会の開催等を行う。個別支援については所内全体で取り組む。
- ・青対協議会: 市、農業委員会、JA、農高、農家代表、農林、普及で構成。
- ・青対協担当者会: 市、農業委員会、JA、農林、普及の新規就農担当者で構成して、相互で連携し、新規就農者の確保・育成支援を行う。

- ① 就農形態が多様化する中、新規就農者を着実に確保・育成する。
- ② 地域・部会が主体となり新規就農者を受け入れ、育てる体制の充実を図る。
- ③ 地域農業の振興・発展に重要な役割を果たしている女性農業者の育成とネットワークを構築する。

## 目標とする成果

## ① 新規就農者の安定的な確保

■ 5か年で延べ81名の新規就農者を確保できた。



注) 各年とも調査対象は前年6月～当年5月までの新規就農者数

## ② トレーナー制の定着による好循環(確保・育成)

■ 将来の産地展望に危機感を抱く生産部会では、部会内で新規就農者を育てる仕組みが確立し、就農希望者が安定的に確保できる好循環が生まれている。



トレーナー制の推進

## ③ 新規就農者の早期経営安定

■ 農業経営に必要な知識・技術を習得することにより、農業経営の安定と定着につながっている。

## ④ 女性農業者のネットワーク構築

■ 個々の資質向上に加え、グループ活動や他地区との交流を通じてネットワークの輪が広がった。



他地区との交流

## 今回の普及活動の特徴

関係機関と連携した新規就農者の確保・育成の取組

地域を担う女性農業者の掘り起こしとネットワーク構築および活動支援

## 目標を達成するための普及活動

## ① 関係機関との連携体制整備(H30～R4)

■ 円滑な取組推進に向けて市町・JA・農業委員会等で構成する「三神地域の青年農業者育てる会」(以下「育てる会」とする)を核として検討を行った。



育てる会



園芸団地視察

## ② 新規就農者の確保(H30～R4)

■ ワンストップ相談を入口に就農まで一貫した支援  
■ 就農啓発セミナーの開催  
高校生～社会人の掘り起こし  
■ 生産部会の受入体制の整備  
トレーナー制等の推進・支援(のべ5生産部会)



高校生と先輩農家



苺やってみようセミナー

## ③ 新規就農者の育成(H30～R4)

■ 農業経営基礎講座の開講  
■ 就農5年未満の新規就農者への個別訪問による濃密支援



個別支援

## ④ 女性農業者へ支援(H30～R4)

■ 女性農業者の掘り起こし・育成  
■ 女性グループ活動の支援



女性活躍推進

## 関係機関との連携

「三神地域の青年農業者育てる会」を核に、連携のもと、合意形成を図り進めた。  
構成員：市町、農業委員会、JA、農業士、高校

- 圃場条件が厳しく担い手不足が深刻な石室集落では、組織によって効率的に農地を維持していく体制づくりが求められていた。
- そこで、**集落ビジョン**の作成とその**実現**に向けた支援を行った。
- 機械利用組合は**オペレーター**制へとステップアップし、水田の維持が図られた。
- 新規品目**導入で所得が向上し、出荷は組織間**連携**が進んだ。

## 目標とする成果

### 1 農地の受け皿となる組織の体制を整備

- 機械利用組合の体制を  
共同利用 → オペレーター制による**共同**作業へ



水稻 つや姫 で  
共同収穫が開始

集落で**水田**を守る

- 野菜栽培省力化部会を設立  
**共同**で省力的に野菜を栽培



根深ネギ、カンショを  
共同栽培

集落で**畑**を守る

### 2 **新規品目**を導入

- 8品目 検討 → 4品目 定着

根深ネギ、カンショ からゆたか、  
ホオズキ、シンテッポウユリ



### 3 組織間で連携

- 根深ネギを他集落と**共同**で出荷  
意見交換、情報共有
- イノシシ対策技術を他集落へ波及

## 今回の普及活動の特徴

集落ビジョンを作成し、その実現に向けて段階的な  
伴走支援を行ったことで、集落が**主体的**に活動できた

集落内、組織間連携による**共同**作業体制が整い、  
効率的に農地を維持できるようになった

## 目標を達成するための普及活動

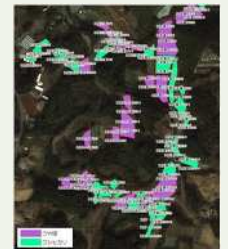
### 1 **集落ビジョン**を作成 9 項目 49 の取組

- 石室農業を考える会 発足  
集落**全員**で将来を考える場ができた
- **階層別**ワークショップ、アンケート  
経営主、配偶者、後継世代に分けて実施
- 結果をグラフにまとめ、**危機感**を醸成



### 2 水稻作付圃場を**見える化**

- 品種ごとに圃場を色分け
- 耕作者の氏名を記載
- 班分け、刈り取り順の  
協議がスムーズに



### 3 新規品目の展示ほ

- **所得**の向上が期待できる品目を検討
- 作業機械の**実演会**を開催
- 生産者、**JA**、**市場**とともに  
生産物を確認



### 4 組織間連携

- 集落、集落営農法人の代表者を集め、  
課題を洗い出した

## 関係機関との連携

振興センター、市、JAで**石室支援チーム**を結成  
作付データの収集、集出荷体制の確立等**分担**

- ナシの生産者や栽培面積は年々減少傾向であり産地維持には担い手の確保が必要である。
- 園地流動化に取り組む「伊万里梨発祥立川の梨園を守る会」「府招上地区の樹園地を守る会」でナシ研修生の受入(短期・長期)を行った。
- 地域の生産者の主体的な活動による県内初のナシ研修生受入体制ができた(ナシ研修生受入可能農家(累積)9名)。

## 目標とする成果

## 1 担い手確保のための支援体制の整備

- ・ナシ産地の維持のため地域内外からの担い手確保→梨研修生の受入れ体制を整えた

## 2 就農促進活動

- ・ナシ研修生募集の周知を行うため  
→就農フェア・移住相談会に参加  
→長期研修生(1名)につながった。

## 3 果樹の担い手への技術支援

- ・集落を中心とした研修生受入体制の整備  
→パンフレットの作成  
サポーターの登録

## 研修受け入れ可能農家数

|    | 立川 | 府招上 |
|----|----|-----|
| R2 | 3名 |     |
| R3 | 5名 | 4名  |
| R4 | 5名 | 4名  |

## 伊万里梨発祥立川の梨園を守る会

- ・長期研修(1名)を受入れ就農につながった。
- ・研修生就農時には未収益期間が問題  
→成木園の継承と新植を組み合わせ

## 府招上地区の樹園地を守る会

- ・研修生募集時の提示情報として、研修後の就農園が必要 →就農園の整備の検討

## ナシ研修の実績

|         | 立川   | 府招上  |
|---------|------|------|
| 短期研修 R1 | 1名   |      |
| 〃 R2    | 1名   |      |
| 〃 R3    | 2組4名 | 1組2名 |
| 〃 R4    |      | 1名予定 |
| 長期研修 R3 | 1名   |      |

## 今回の普及活動の特徴

研修生受入れは集落への支援をすることで地域が主体となった研修制度の整備につながった。今回の研修受入～就農までの課題を整理し、今後の活動に活かす。

## 目標を達成するための普及活動

## 1 担い手確保のための支援体制の整備

- ・ナシ研修生受入体制整備のための役割分担
- ・集落の動きや対応を検討
- ・意向調査の実施
- ・研修生のための経営指標作成

## 2 就農促進活動

- ・管外を含めた就農者確保促進活動  
(就農フェア・移住相談会)

## 3 果樹の担い手への技術支援

- ・集落でのナシ研修生受入体制の検討・整備  
カリキュラムの作成  
パンフレットの作成  
就農セミナーin立川の開催
- ・就農サポーター推薦
- ・集落の生産者を中心とした  
長期研修・短期研修の実施



## 関係機関との連携

- ・伊万里梨発祥立川の梨園を守る会及び  
府招上地区の樹園地を守る会  
⇒研修生受入
- ・農業振興センター(経営・果樹)  
⇒コーディネート・経営指標
- ・伊万里市農業振興課  
⇒研修受入れ窓口・生活フォロー
- ・JA伊万里果樹担当  
⇒技術フォロー・継承関係

- ①5年前に比べ農業者は15%減少している中、関係機関の連携体制を強化し、5力年間で200名の新規就農者を確保する。
- ②基礎的知識・技術の習得に向け新規就農者の早期経営安定を図る。
- ③重要な担い手である若い女性農業者(概ね45歳未満)に向けた研修を強化し、農業経営体の継続的な発展と意欲ある農業者の育成を図る。

## 目標とする成果

### 1. 新規就農者の確保

■5力年間で**目標数の200名をほぼ達成**することが出来た。

■トレーニングファームを核とした就農者の確保。  
※():杵島管内就農者数

| きゅうりTF   | トマトTF  | いちごTF  | 合計       |
|----------|--------|--------|----------|
| 16名(13名) | 5名(1名) | 8名(7名) | 29名(21名) |

### 2. 新規就農者の育成

■青年農業者等育成塾の開催

基礎講座439名、選択講座186名が受講

受講者アンケートでは**90%以上が「満足」と回答**

■新規就農者に対する巡回指導

5力年間で**対象者77名への巡回指導**

その結果、**信頼関係の構築、収量UP**に繋がった

■振興センター、農技防職員の働きかけにより、**きゅうりTF修了生の自主的勉強会組織が誕生!**



座学風景



相互圃場巡回

### 3. 若い女性農業者の育成

・農業女子研修会を23回開催したことで、技術習得意欲の高まり。**品目毎に繋がりが出来た。**

・JA白石地区杵藤いちご部会女性部立ち上げ。

・自主的組織が2組織誕生。



AGUMI Group誕生

## 今回の普及活動の特徴

関係機関と連携し、トレーニングファームを核として新規就農者の確保育成に取り組んだこと。

若い女性農業者の育成を強化し、ネットワーク構築及び活動の支援を行ったこと。

## 目標を達成するための普及活動

### 1. 新規就農者の確保

1) 就農啓発セミナーの開催

**延べ405名の高校生**が出席

2) 農業青年による食農体験

**延べ143名の園児、小学生**が体験



青年農業者との交流会



園児の食農体験風景

3) トレーニングファームの運営及び研修生への就農支援

4) 「農業やってみようセミナー」開催支援

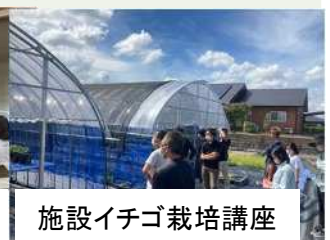
### 2. 新規就農者の育成

1) 新規就農者激励会の開催

2) 青年農業者等育成塾の開催



「農業経営と生活設計」講座



施設いちご栽培講座

3) 新規就農者に対する巡回指導

### 3. 若い女性農業者の育成

・農業女子研修会の開催

**合計23回**

・ライフプランの策定支援

**延べ21名**を対象



農山漁村男女共同参画推進会議

## 関係機関との連携

1. 関係機関との連携強化で就農前後の支援体制整備(市町、農業委員会、JA、農業士、教育機関)

■関係機関と連携した**ワンストップ就農相談窓口**の設置→**就農相談対応:のべ125名**

■青年等就農計画の作成支援等

■トレーニングファーム運営協議会の参画、支援

- ・みかん産地での高齢化が進み、**耕作放棄地となる優良園地の増加**が予想されるため、**10年後のビジョンを作成し、担い手へ園地集積を図る必要があった。**
- ・中山間の樹園地を維持するために**新技術(高収益品目・栽培)を導入し「稼げる農業」を実践する若手生産者に支援を行った。**
- ・この活動により、**集落ビジョンを作成して、担い手に1ha園地集積し、みかん根域制限栽培、シャインマスカット導入により、「稼げる農業」を実践した。**

## 目標とする成果

### ■ビジョン作成と担い手への園地集積 規模縮小農家⇒規模拡大農家 園地集積1名1ha

JAさがみどり地区太良支部糸岐地区産地ビジョン

|       | R4(現況) | R9(5年後) | R14(10年後) |
|-------|--------|---------|-----------|
| 樹園地面積 | 33ha   | 31ha    | 27ha      |
| 生産者   | 21名    | 19名     | 18名       |

◆産地ビジョンの概略

- (1) 担い手への園地集積  
・離農、縮小する生産者の園地を担い手へ地区内で話し合いを遂行集積していく。(耕作放棄地を最小限にとどめる)
- (2) 温州みかん高品質果実生産  
・温州優良系統生産拡大(ゆら、石地、寿太郎等)  
・根域制限栽培導入拡大(早生温州)
- (3) ブドウ(シャインマスカット)栽培の導入  
・みかん栽培との複合経営による収益性の安定(労力確保)
- (4) 鳥獣被害対策  
・園地のゾーニングを図るとともに電気柵、WMで園地を守る



## 目標を達成するための普及活動

### ■ビジョン検討と園地流動化アンケートの実施 規模拡大農家訪問による園地のマッチング



### ■根域制限栽培 高収益実証 (400円/kg・3t/10a) 導入面積68a 3名



### ■新技術研修会開催 根域制限栽培導入推進 推進パンフレットにより埋込式根域制限栽培導入



### ■シャインマスカット 高収益実証 (1,900円/kg・1.6t/10a) カンキツ+ブドウ栽培農家育成 3名

シャインマスカット導入面積 91a



### ■経営指標によるカンキツ+ブドウ栽培の推進 「稼げる農業」果樹複合経営による産地活性化

【標準モデル】カンキツ+ブドウ 労力2人

|                | 藤早生   | 藤早生<br>ゆら | 早生    | 普通<br>中生系 | 根域<br>制限 | シャイン<br>マスカット | 合計     |
|----------------|-------|-----------|-------|-----------|----------|---------------|--------|
| 高接<br>(a)      | 15    | 40        | 60    | 25        | 10       | 10            | 160    |
| 単収<br>(kg/10a) | 3,000 | 2,500     | 3,500 | 3,500     | 3,500    | 1,800         | —      |
| 単価<br>(円/kg)   | 194   | 219       | 236   | 269       | 371      | 1,800         | —      |
| 販売額<br>(千円)    | 873   | 2,190     | 4,956 | 2,354     | 1,299    | 3,240         | 14,911 |
| 所得<br>(千円)     | 349   | 876       | 1,982 | 942       | 649      | 2,268         | 7,066  |



## 今回の普及活動の特徴

### ■10年後のみかん産地のビジョン作成により 担い手への園地集積の方向性を示した。

### ■鹿島市で普及拡大したみかん根域制限栽培・ シャインマスカットの太良町糸岐地区への横展開から町内への波及拡大

### ■果樹複合経営(カンキツ+ブドウ)の推進

## 関係機関との連携

### ■JA、太良町と連携を取りながら、ビジョン検討会 を開催し情報共有しながら、効率的に担い手へ園地集積した。

### ■JA、太良町と連携し、事業活用することで根域制限栽培、シャインマスカットの導入促進より、「稼げる農業」を早期実現。